

# 関東支部会報



令和4年4月  
支部長:大野吉郎



## 巻頭言

豊友会・関東支部とのかかわり

豊友会 関東支部顧問

河野 和昌 (昭45年卒)



関東支部

の皆さま、お  
元気で過ご  
ごしでしょ  
うか。新型コ  
ロナ第6波  
が過ぎよう

としていますが、このまま収束して  
くれるよう願うばかりです。

最初に自己紹介をします。父の仕事の  
関係で、玖珠町他4つの町市を転々とし、  
昭和41年に学芸学部に入學、大分市での  
下宿生活を経験後、本拠の日出町に戻り  
ました。当時は、学生運動の盛んな時期で、  
地方の大学でも大変な状況でした。卒業後

教員採用数が極端に少なく大分県を  
早々あきらめ、東京都の採用試験を  
福岡県で受け、年度途中で小金井市  
の教員になりました。それから、多

摩地区4市の教員37年余り、研修

センター5年、さらに今の年金生活

10年近くとまあ順調な人生を歩ん

できたかなと思います。一人前に結

婚し、子供や孫を授かり、その意味

では恵まれたほうかもしれませぬ。

しかし、このところは右膝の関節痛

に悩まされ、行動が制限されて生活

が一変してしまいました。10kg

の減量と筋肉運動に勤しむ毎日です。

私と関東支部とのかかわりは、昭

和60年頃当時の支部長さんの知り

合いの紹介による総会参加からでし

た。その頃の活動は、東京支部とし

ての総会と懇親会が中心で、一年に

一度多摩地区から都心に行き、先輩

の皆さん方との交流を深めたもので

した。お会いした先輩方は東京都の  
教育を担っているという気概と存在  
感があり、刺激されました。その後  
は、少しずつ事務局運営や支部報編  
集など関わるようになりました。そ  
して大野現支部長をはじめ事務局の  
方々とこの10数年関東支部を支え  
てきました。

県内の支部と違って、関東支部は

関東一円広域の会員で構成される組

織です。そのため、活動は組織維持

より「支部会報」による会員交流が

中心になります。そこで、東京支部

から関東支部になったこの10数年

は会報の充実に努めてきました。特

にこの4年間ばかりは支部会報担当

者の精力的な活動により会員の皆様

に寄稿のお願いをしているところで

す。今号もご協力をいただき、無事

に発行することができました。毎号

の支部報を拝見し、皆さま方の思い

出話や近況報告は心にしみるような

内容ばかりで、本部報よりもずっと

楽しみとなっております。互いに会っ

たことのない「支部報つながりの会

員仲間」でもよいのではないかと私

は思います。

しかし、現状は関東支部を支える  
後継者が少なく、今のままでは大変  
な状況になります。今後は、皆さま  
のお知恵を拝借したり、ご協力をお  
願いしたりすることもあるかと思っ  
ます。今後ともご協力をお願いしま  
す。



## 会員だより

私の歴史(下) 上京編

岩尾 美元 (昭39年卒)

前回の支部報に引き続き岩尾さ  
んのお話です。大分大学を卒業し  
上京します。

東京に受験のため出発の朝、アメ

リカ大統領ケネディ

の暗殺でした。その日

の夕方「富士号」で出

発。三和電気興業株式

会社に合格し4月か

ら採用で仕事は電気

工事(コンピュータ、

電話工事、出向社員

等)でこの年は東京で



オリンピックがあるということで忙しくなりました。

最初はNECの平間工場の放送機  
器の工場に行きその後NECの府中  
工場に工場ごと移転し勤務でした。  
仕事はビデオテープレコーダーのト  
ランジスタ化でしたが、鳥取放送の  
FM放送の新設で行くため仲間と材  
料を用意して行くことを決められ倉  
庫に材料を用意しに行きました。し  
かし私は学校の先生になりたい。た  
またま神奈川県教育委員会が試験  
をしてくれるのでと説明して帰った。  
その次の日NECに仕事に行ったら  
本社に帰社命令で帰社すると重役た  
ちに呼ばれいろいろと聞かれ、ある  
重役からは工事会社で働けないよう  
にすると脅されました。今では考え  
られない話。

私は神奈川県教育委員会に採用さ  
れて以後大分を出発以来勉強できる  
環境に恵まれて近くの明治大の大学  
院電気工学修士課程があり大学院で  
リカバリエレクトが勉強でき、ま  
た研究室に恵まれ外国語の研究がで  
きました。

終了後桜美林大学に英語の免許状

のため2年間勉強をしまして免許状  
は小1普、中2理普、中2英普、中  
2数普、高1工普、高2理普、高2  
数普、高2英普を取得しました。近  
所のエンジニアから外国製の楽器を  
修理したらどうかと言われすぐ了解  
して東京の会社を紹介され東京に行  
き始めました。学校の勤務とうまく  
調整して日本国内の楽器の修理をし  
ました。おかげでアメリカの楽器会  
社とつながりインディアナ州のキン  
ボールのピアノとオルガンの研究に  
行きました。もう一社はユタ州のワ  
ーリッツアにもピアノとオルガンの  
研究に行きました。学校での担当は  
理科の先生でしたが大学院を終了後  
は電気を教えるように変更して電気  
の指導に入ってから電気工事を学ぶ  
ため現場を選び現場に行きました。  
おかげで大変なことと暑さを学び定  
年まで学びました。定年後は電気工  
事の会社を作り努力しました。その  
間電気の資格は全部取得しています。  
定年後は電気関係の受験塾をやっ  
ています。

私の長男は日産自動車の関係でテ

ネシー州に勤務。私も勤務を終える  
前に遊びに5回ほど行って来ました。  
次男は私が米国で学んだように大  
学で学び帰国後ある大学で理工学部  
の部長で活躍しています。最近は私  
は塾、岩尾美元YOUTUBEで努力して  
います。本当に大分大学で学び黒瀬  
先生にお世話になりました。大分大  
学ありがとうございます。

コロナとともに



小田原 八千代(昭44年卒)

コロナ感染症の流行拡大で活動を  
縮小する為、趣味の合唱団を二つ退  
団したが、まだ二つの合唱団に所属  
中。でも現在はオミクロン株拡大の  
為活動停止状態で淋しい限りです。  
三回目のワクチン接種は一月末に終  
了。一安心しています。活動の制限  
はある中でも家庭菜園・健康体操・  
活け花・俳句等の趣味は続けつつ、  
断捨離と終活を兼ねて家中の不用品  
の処分をした。アルバム・古本の処  
分には心が痛んだが、ほぼ終了した  
のでホッとしています。昨年後期高

齢者の仲間入り

をしたので、医療  
費が一割になり、  
家計の助けにな  
りました。又、運  
転免許更新の折  
に受けた認知症  
テストで満点だった。認知症の心配  
がなくなった事がとてもうれしい出  
来事の一つでした。

今後も心身のバランスを保つ為  
にも必要な外出を控えながら趣味は、  
運転のできる間続けていこうと思  
います。又、睡眠と食事は免疫力ア  
ップの為には特に気をつけ、ピンコロ  
を目指したいと思います。

お互い健康とコロナに留意して長  
生きしましょう。

今の心境を一句詠んでみました。

どんと来い

オミクロン株花粉症

孫と住む

山下 文江(昭48年卒)



弟が生まれるので二歳になる男の孫が、母親とともに、我が家に来て産前産後を含め四か月ほど一緒に生活をしました。私は娘二人を育てたので、はるか昔のことながら、二歳前後の子どもの様子は理解していた。サポートは軽い気持ちで引き受けた。

ところが日に日に育っていく孫の行動に違和感を持つようになった。

好奇心が強く自分の意思を曲げることなく、思うがまま動く。これは彼の特性なのか、何か障害となるものを抱えているのではないか。翻弄された私の自由時間と体重が削られていった。

友人たちにこの話をすると、どの方も異口同音に、「男の子は、そんなのよ。女の子とは全く違うのよ。」と言い、人によっては、「自分の男の子育ての経験談を話してくださった。孫は以前にも増して、いたずらの数を増やすと同時に、出来ることが増えていく。その生育に驚き、



感心しながら、私は孫との接し方ができるとき、余裕を持って向き合うこと

幼い兄弟は、しんどさと、代えがたい体験と思いい出を私たちに置いて帰って行った。



これまでの日々これからの日々

阿部 京子(昭51年卒)

国語科金子博ゼミの盟友箕川

みはるさんから紹介いただき、このたび豊友会に入会いたしました。

一九七六年より二〇一四年までの三十八年間、横浜市の小学校に勤務いたしました。大らかで自由な気風の街で、懐の深い暖かな職場と人々に出会い、意義深く、とても楽しい教員生活を送ることができたのは幸運でした。

勤め始めてすぐ、首都圏の新しい文化に触れ、見聞を広めたいと思いい、関内にあつた「文学学校」という所に通い始めました。多分野の識者の講義を聞き、現代詩の創作にはげみました。年齢も来歴も異なる大勢の人達と知り合い、優れた才能や

ユニークな個性に出会い、刺激を受けました。

時が過ぎ、世の中も変化し、仕事も家庭も多忙を極めるようになりました。文学学校に通う時間も、詩作する時間もとれない日々が過ぎていきま

した。「自分にとつ

て大切なものを手放

したくない」と思

い、詩誌や送られて

くる同人誌を読みな

がら、なんとか、細い糸で文化的なもの

と繋がっていました。

自由な時間を手にした今、いくつかの同人誌に参加し活動していま

す。「自分の思いを表現することの

喜びと意味」は、大学時代の「金子

ゼミ」での学びと、多くの時間を費

やした「大分大学写真部」での活動

が教えてくれました。ありがたい出

会いだつたなど、感謝しております。

このたびの豊友会入会で、再び大學生に戻れたような気持ちになり、嬉しく思っております。豊友会の皆さ

ま、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



近況

大津 敦子(昭60年卒)

皆さま、はじめまして、昭和60

年卒の大津敦子と申します。卒業後は大分で教職に就きましたが、結婚

のため教職は残念ながら辞し、上京

しました。東京では心機一転、人材

会社に就職し、子育てを経て、今は

キャリアコンサルタントとして活動

しています。東京での生活の方が大

分での暮らしより長くなりました

が、気持ちは大分県人です。とはい

え、東京の歴史や町の成り立ちに

は、興味が深まっており、江戸時代

から脈々と受け継がれている水路や

街並みを巡ってみたいと思っていま

す。コロナ後の楽しみの一つです。

ところで、新国立競技場には、皆さん足を運ばれましたか？私は、昨年

年末12月19日サッカー天皇杯決

勝戦に大分トリニータが勝ち進み、

急遽チケットを手に入れ、夫と応援





る人が全員大分出身という訳でもないでしょうが、人数の多さに感激しました。結果は負けましたが、コロナ対応で声を出せない応援でしたが、得点した時は、つい「うおお！」と声が出てしまいました。

私の人生は、ふるさと大分に根を張り土台を固め、東京で枝葉を伸ばしてきたように思います。これから花を咲かせられるよう、精進いたします。



### 卒業して現在にいたるまで 仲元 歩美 (平成20年卒)

こんにちは、私は2008年卒の仲元歩美と申します。教育福祉科学部の保健体育専修でした。中学校から柔道を始め、高校、大学もずっと柔道部に所属していました。卒業後は航空自衛隊に入隊し、宮崎県の新田原基地で勤務しました。お金をい

ませんが、以前から柔道指導者になりたいという夢があり、自衛隊を2年間で退職、その後青年海外協力隊の柔道隊員としてアフリカのザンビアで柔道指導に携わりました。ザンビアでは水や電気がままならない、鶏も自分でさばいて食べるような生活を毎日しておりましたが、現地の人たちに支えられ、選手と一緒に非常に有意義な3年間を過ごすことができました。

帰国後は上京ししばらく模索の日々が続いておりましたが、色々なご縁もあり、現在は都内で小さな会社を経営し、視覚障害者柔道「パラリンピック柔道の選手育成を行っております。昨年行われた東京パラリンピックへは、自身が指導していた48kg級の半谷静香、63kg級の工藤博子、70kg級の小川和紗の3選手が出場し、70kg級の小川和紗が銅メダルを獲得しました。この大会で私も多くの課題が見つかったので、次のパリ大会ではさらによい結果が出るよう、日々精進したいと思っています。

私は地元が大分で、大学を卒業して大分を離れて早15年になりました。これまで色々な場所で色々なことを行ってきましたが、躊躇なく前進できるのは大分という戻れる場所があるということが大きいです。また大学で学んだ知識や経験が今なおとても生きており、私の自信になっているのを実感します。

これからも人として成長し、悔いのない人生を歩んでいきたいと思っています。私はいつとも柔道着の肩に大分のキャラクターである「めじろん」をつけて活動しているの



めじろん

で、どこかで見かけましたら是非お声かけ下さい。関東地域に大分大学の卒業生がいらっしゃると思うととてもうれしく励みになります。

コロナの収束もまだ見えず、国内外共に不穏な日々が続いておりますが、皆さんどうぞお体にお気をつけてお過ごしください。略儀ながら書中にて失礼いたします。

### 編集後記

◆豊友会関東支部報(春季号)をお届けします。今回は5名の方から寄稿していただき、前回の岩尾さんを含め6編の手記を載せることができました。ご協力を感謝申し上げます。



◆約150名の会員のみな様全員のお声をこの支部報を通してお届けしたいと思っております。日常の些細なことで結構です。どうか、お気軽にお便りをお寄せ下さい。

◆郵送でもメールでも結構です。500字〜1000字程度で、左記の担当までお送りください。

・〒233-0007 横浜市港南区大久保 3-20-17-315 鬼塚 昭政 迄  
・メールアドレス  
oni\_bach\_11@yahoo.co.jp

次回の秋季号に記載いたします。

◆みな様のお知り合いの中で、大分大教育学部卒でまだ豊友会に加入されていない方がおりましたらご紹介下さい。(左記事務局まで)

黒井 勝 ☎ 03-3643-3849